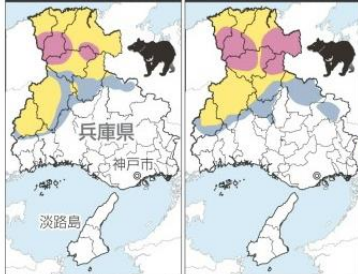


# ツキノワグマ狩猟 来月15日解禁

## 獣害防止 効果いかに

兵庫県のクマの出没状況  
2006～2009年の出没状況 2011～2014年の出没状況



(県森林動物研究センターの資料から作成)

ツキノワグマは生息個体数が減つたため、1992年度に県の要請で県猟友会が狩猟を自粛。96年度には100頭以下になったとして県が全面禁止し、人里などへの出没情報も増

### 出没増地域も拡大

兵庫県のツキノワグマの狩猟が、20年ぶりに解禁される。絶滅の恐れから禁猟の措置が取られてきたが、山間部の過疎化も相まってクマの数や生息域が拡大し、人や農作物への影響が深刻化しつつある。ただ、今秋は餌の木の実が少なく、出没が増える恐れがあるが、猟師の減少と長年の空白でクマ猟に積極的な猟師は少なく、捕獲数を見通すのは難しい。 (阿部江利)

- ① 兵庫県でツキノワグマの狩猟が解禁されるのは、何年ぶりですか？
- ② 20年前は、ツキノワグマの生息数はどれくらいでしたか？
- ③ 2015年には、その個体数はおおよそ何頭でしたか？
- ④ 人里などへの出没情報や、出没地域はどうなりましたか？

その後、2005年以降、推定生息数は毎年2割ずつ増え、15年には県の計画で禁猟を解除する目安の800頭を上回る約940頭に上った。人里などへの出没情報も増

加。11、15年度は計2676件と、05～09年度計16800件の約1.6倍になった。出没地域も南下し、これまであまり目撃されていなかった北播磨や西播磨南部、北摂へと拡大。県は11月15日から1カ月間、20年ぶりにクマ猟の限定的な解禁。猟師1人1頭、有害駆除を含め上限140頭に踏み切った。

- ⑤ 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。

NIEワークシート／中学～高校生／総合、学活、LHR、朝NIE



●頭が不作だった年に、住宅地に現れた子クマ。2010年10月、豊岡市日高町。クマが実を食べ尽くしたナシの木に残る爪痕。2016年8月、但馬地域



●頭が不作だった年に、住宅地に現れた子クマ。2010年10月、豊岡市日高町。クマが実を食べ尽くしたナシの木に残る爪痕。2016年8月、但馬地域

### クマ撃ち希望 少数

クマは銃撃に限定されるが、県内の銃撃免許所持者は、96年度の5606人から13年度末には約450人まで半減。高齢化で銃を放す人も少ない。さらに、同世代が昨秋、猟師約500人に実施したアンケートでは、クマを撃ちたいとしたのは、禁猟前には養父市で4頭を持った丹波の男性も数年前、銃を手放し、「知らない」とする。県鳥獣対策課は「実際に頭捕れるのは未知数。下限は設けておらず、まずは保護から多数の調整への転換が求められている」と説明する。

一方、豊岡市内のコメ農家の男性(65)はクマが集落に近づくのを防ぐ「防除」に取り組み、解禁に懐疑的だ。「作物を食べ、人を恐れなければ殺処分もやむを得ないが、無分別に殺すのはためらいがある。クマの生息環境保全に取り組み、日本熊森協会(西宮市)も「種族などで荒れた森林環境の改善が先など」と反対している。